

「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」

～学びと活動の循環を促す方策について～

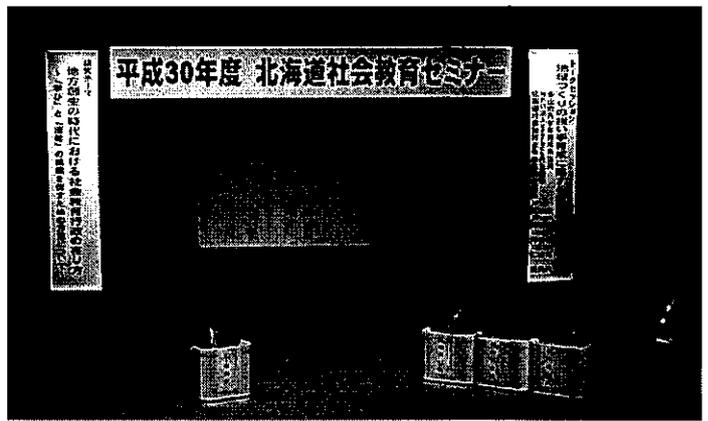
研究のまとめ

アプローチ集

1. はじめに

このまとめは、北海道社会教育主事会協議会と北海道立生涯学習推進センターが、協働で取り組んできた地域住民や団体等が主体的に地域活動に参画するための、社会教育行政からのアプローチをまとめたものです。全道の担当者が研修会において、作成したものと実際に市町村で実践されたものを掲載しています。

全道の社会教育担当者の業務を遂行する上で、参考となるものです。是非ご活用ください。



2. アプローチ集について

(1) 掲載したアプローチ

H30年度社会教育セミナー参加者が分科会で作成したものと、その後、社会教育担当者が実践したものを合わせて掲載しています。

(2) 評価

実践者がアプローチによって課題解決につながったかどうか評価したものです。

◎：想定以上の効果があった

○：おおむね想定どおり効果があった

△：想定どおりにはならなかった

継：報告段階で実践が継続中のもの

未：H30年度社会教育セミナーで作成されたが未実施、又は実践報告がなかったもの



(3) 分類

H28年度末にまとめた「学びの循環」「学びを促進する要素」による分類を示しました。複数に該当するアプローチもありますが、主なもののみを記載しています。(p15参照)

「学びの循環」

A：地域を好きになる学び 地域に対する理解、困りごとなど、課題発見の学びを促進するアプローチ

B：行動につながる学び 人と人、人と物や事との関係づくり、課題探求の学びを促進するアプローチ

C：持続発展に向けた学び ネットワークの拡充や再構築、活動の持続発展等を促進するアプローチ

「学びを促進する要素」

D：人が集う場 ニーズや課題等の情報を共有する場所、サークル等組織の要素を有するアプローチ

E：多様な主体との連携 学びと活動の拡充のための連携の要素を有するアプローチ

F：よそ者 外からの視点の要素を有するアプローチ

G：経済活動 組織を持続発展させる資源の要素を含むアプローチ

青年層が主体的なまちづくりを展開するアプローチ

主体性を高めたい団体等に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
1	子ども会事業に企画段階から社会教育担当職員が関わり、子どもたちの要望を伝えた。	夏季野外レクリエーションに子どもの要望「何か出来るようになりたい」を取り入れた「火おこしブース」を企画、準備から実施まで、主体的に活動することができた。	○	A F
2	イベント等に関心のありそうな青年数名に青年企画委員を担ってもらい、イベントを開催した。	青年委員同士のつながりができ、活動の活性化が図られるとともに、活動継続の体制を構築することができた。次の段階として主体的に動くことを目指す。	○	B D
3	成人式実行委員会に過去の成人式を振り返りから、プログラムの企画をしてもらった。	主体性をもち、活動の活性化が図られた。	継	A D
4	行政から提案をしなくて、企画段階から参画する。	自主性・主体性を持った活動を行うことが出来る。	未	A
5	自分たちもやってみたくて、ワクワクするような先進地視察を行う。	楽しさから主体性が生まれる。	未	A F
6	成人式等（青年の集まる場）で、教育委員会から団体の存在意義を伝え、地域を知るウォークラリーを実施する。	会員（仲間）が増え、町を知ることで活動への意欲が高まり、自分たちにしかできない活動の実施につながる。	未	A E

青年団と個人、青年団と他の青年団のつながりを増やしたい団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
7	継続的なつながりづくりを実施する。	仲間が増え、活動の活性化につながる。	未	B D
8	スポーツ団体に管内・近隣での大会・交流会を実施した。	町内でも大会を独自に開催するなど、自主性・主体性の向上につながった。	継	B D
9	継続的に「まちづくりワークショップ」を開催した。	それまで、接点のなかった住民につながりができ、交流が生まれている。	○	A E
10	青年団主催「異業種交流会」を2回実施した。	新たなつながりが生まれた。 団員が会を運営することで個人のスキルアップにつながった。	○	B D
11	成人式の実行委員会で facebook を立ち上げる。	つながりを醸成し、事業を成功させることができ、成功体験を得ることによって、意識を変えることができる。	未	B E
12	成人式実行委員会の連絡調整で LINE を使用した。	離れた場所からつながることができ、人材不足の解消ができる。	継	B E
13	各青年団の役員が、それぞれ1名に加入を働きかけた。	これまで会員は、役場青年中心だったものが広がり、新たな会員を得ることができた。	○	B

14	青年団の会議を減らし、会議の場所を変えた。	役員、会員の参加が増えた。	○	B
15	世代間交流事業を企画から実施まで行ってもらった。	企画を考える力と、協調性を育む一助とすることができた。	○	A

地域活動を始めてほしい人材育成事業の参加者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
16	参加者の学習ニーズの把握や実践につながる人財育成事業を実施するために事業修了者に運営者として参画するよう促し、運営者会議を組織した。	修了者からの意見で事業評価、課題が明確になった。修了者が運営者となることで更なる人財育成につながる。「学び」と「活動」の循環を図る環境を整えることができた。 ※人財：実践者の表記を尊重しました。	○	A D

活動内容に迷っている団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
17	定期的に集まる場を創出し、語り合う機会を設ける。(教育委員会がファシリテートする)	居場所からつながりができ、つながりから具体の活動へと発展する。	未	B D
18	先進的な取組を行う、人材と交流するなど、考え学ぶ機会を持った。	「学び」をもとに「活動」につなげることができる。	継	B F
19	団体が集まる会議で活動奨励金の話をした。	近年見なかった団体からも問合せがあり、行事への参加も増えた。	○	B G

青年団活動が理解されていない地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
20	青年団活動の様子を地域に向けて発信し、地域からの評価を受け止めるようにする。	自己有用感を育み、活動の活性化につながる。	未	C F

特に団体もなく、地域活動が活発ではない地域住民に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
21	成人式の実行委員会に対し、行政側のルールに乗せるのではなく、主役は住民であることを念頭に置きコミュニケーションを図り、やりたいことを応援する心がけ、準備作業等は見守りながら作業員として同席した。	実行委員会は、自分たちで話し合いながら活動を進めていくうちにチームワークができた。事業終了後は、「会がなくなるのが寂しい」という声もあり、新年度の社会教育事業にこのメンバーで出し物をする事が決まった。	◎	A D
22	社会教育主事として、普段から多くの人と関わることで、つながりを持つようにした。	つながりから、参加を促すことで、はじめは興味はなかった事業にも、興味を持ってもらうことができた。意識の変容を促す意図的な仕掛けをつくることで、意欲を引き出すことができた。	○	A D

行政が活動内容を把握していない青年団や、青年個人に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
23	成人式等、もともと青年層が集まるところで調査(アンケート)を実施する。	青年の動きを知り、団体への適切な支援につなげることができる。	未	A D

活動がマンネリ化し、惰性で活動している青年団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
24	会の存続に対する思いや、意見を聞く場を設ける。	団体が活動に対して危機感を持つようになり、活動の活性化につながる。	未	C
		活動の意欲が高まり、地域イベントに参加する回数が増えた。	未	F
25	報告・承認だけの会議をやめ、グループ討議の場を設けるなどアドバイスする。	委員の本音が出てくる会議にすることができる。	未	B F

高齢者が主体的なマチづくりを展開するアプローチ

特技を持っていても生かす機会が少ない高齢者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
26	高齢者個々の特技を把握し、それらを役立てる場を設定する。	知識やスキルが地域の人たちに役立つ。知識やスキルを伝承することができる。	未	B D
27	町の事業において、文化活動の成果を発表する場を提供する。	実施した高齢者が自信を持ち、自主的に特別養護老人ホームへの慰問活動や、ボランティア活動、地域交流事業等地域活動への参加促進につながった。	◎	B D
28	趣味・特技を持った方に、講師として指導を依頼する。	持っている知識・技能をマチに役立てることができる。	未	B
		高齢者大学で、学生同士で、学び合う、教え合う環境ができた。	◎	D

主体的な活動が少ない高齢者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
29	マチの現状や課題を再認識してもらう場を設ける。	問題意識が共有され、当事者意識が芽生え、生活上の問題解決に向け主体的な行動につながる。	未	A D
30	知識・技術を発表・活躍できる場を提供する。	地域活動に参加する機会を増やすことにつながり、主体的に地域活動に参画する。	未	B D

地域の団体のボランティアスタッフに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
31	効率を考えメールで連絡を取り合っていたが、誤解を生じ立腹させてしまった。すぐさま自宅を訪問し謝罪をした。	このことで、かえって理解していただくことになり、信頼が深まった。直接会って話をすることが重要であり、それ抜きでは関係性を保つことができないということをわすれてはならない。	△	B E

団体構成員の高齢化により活動の継続が難しい文化団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
32	学校支援や土曜学習の場で、子どもたちに伝統芸能体験の場を提供してもらった。	後継者育成にはつながっていないが、子どもたちが伝統芸能を知ることによって、団体のモチベーション向上につながっている。	継	C F
33	ほめる、おだてる、よく話を聴くなどして、行政との信頼関係を築く。	高齢者が自分たちの活動に自信を持ち、後継者づくりにつながる。	未	C F
34	町の職員が、活動を褒め、イベントや広報紙等で活動内容や成果物を広く周知した。	多くの人が活動を評価し、高齢者団体が自分たちの活動に自信を持ち、今後の活動意欲が高まった。	◎	C F
35	教育委員会職員が相談役として会に入る。	町づくりに主体的に取り組むという意識を持ち、継承活動を続けることができる。	未	C F

もっと地域活動に参加してほしい高齢者大学に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
36	アドバイザーを配置し、目的設定、文化活動の成果を発表する場を設ける。	高齢者を高齢者大学以外の場での活動に巻き込むことができる。	未	A D
37	外部講師等と呼ぶ事業には、高齢者大学の学生以外に学校や他団体、地域住民等と一緒に参加できるようにする。	主体的に大学運営に関わり、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。	未	B E
38	子どもたちと、昔遊びや歴史・文化に触れる機会をつくった。	高齢者は、地域活動への貢献ができ、主体的な活動となった。	○	B F
39	町内の幼稚園と連携し幼稚園児を招き昔遊びを実施した。	普段は聞いているだけの方も積極的に昔遊びを教えるなど、主体的に活動する姿が見られた。	未	B F
40	アドバイザーを配置し、地域活動を実施するように働きかける。	地域活動において、高齢者が若者をバックアップする仕組みを作ることができる。	未	B F
41	アドバイザーを配置し、趣味・特技を生かす場をつくる。	高齢者がスキルを生かし若者をバックアップするマッチを展開することができる。	未	B F
42	専任講師を付け、学生と一緒に大学運営していく。	学生自ら運営する大学という意識が生まれる。	未	B E
43	今の思いややってみたいことなど、雑談を交えて話をする。	活動が活発になり、地域貢献につなげることができるようになる。	未	A E

転出等で参加者が減っている高齢者大学、老人クラブに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
44	町の未来を考える場の提供、地域の再発見の場を提供する。	町の良さの再発見につながり、この町に住み続けようとするきっかけとなる。	未	A D
45	他の年齢層との交流の場を提供する。	地域とのつながりが強くなり、この町に住み続けようとするきっかけとなる。	未	B D
46	全ての活動が「楽しめること」となるように心がける。	登録学生が増えている。 事業の準備等を自主的に行うようになった。 学生が中心となり、新たなサークルが立ち上がった。 対外的に発表する機会が増えた。 学生同士の結束力が高まり、見守り体制の構築につながった。 まちづくりへの参画意識が高まった。	◎	A D
47	キーパーソンを探しリーダーとして活躍してもらった。			B E
48	学習ニーズを把握し事業に反映させた。			A F
49	行政職員が出向き、雑談して、思いを聞き取る。	高齢者のニーズをくみ取ることができ、高齢者が楽しみながら地域貢献をし、充実感を味わうことができるようになる。	未	A E

生きがいを探している高齢者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
50	趣味を見つけてもらいバンクに登録してもらう。	マチに役立つ講師となる。	未	A E
51	集団で触れあう場を提供し、地域について語る場を設ける。	高齢者自身が町の未来を考えるきっかけづくりとなる。	未	A D

身体や生活に不安を持つ高齢者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
52	健康寿命を延ばしたくなる働きかけ、居場所づくり、活躍の場づくり等、高齢者の体力等をカバーする仕組みをつくる。	高齢者と地域の人との関係がつくられ、高齢者が若者をバックアップするマチを作ることができる。	未	A E
53	少年自然の家で食と運動を組み合わせた学習メニューを開発、実施する。	高齢者には、新たな活動の場が増え、今後の活動のバリエーションが広がった。	未	A E
54	幼稚園児と「昔遊び」を行う場を設定すると。	普段は、身体の不調を理由に活動しない方も、子どもたちとの交流を楽しんでいた。	○	B E

家庭教育支援による、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育成するアプローチ

行政間連携が不十分な保健福祉部局等に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
55	役場保健福祉課との情報共有を行った。 町PTA連合会主催の文教懇談会教育懇談会の熟議の場において、町内の保育園の職員と情報共有を図った。	担当者レベルで互いの主催事業を把握ができた。今後、地域課題の共有を図るとともに、連携事業の展開へとステップアップするよう進める必要がある。	継	C E
56	家庭教育支援と子育て支援の違いを一緒に考え、必要な事業を洗い出す機会を設ける。	連携し効果的な事業を実施することができる。	未	A E
57	情報共有する。	保健福祉部局との連携促進、家庭教育推進に向けたチームができる。	未	B E
58	共催事業を実施する。	保護者のニーズを共有し、ニーズに合致した情報提供を行うことができ、保護者の困りごとの解消につながる。	未	C E

独立して活動している地域住民、団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
59	複数の家庭教育支援に関わる団体を集めて、話し合う場を設ける事業を実施した。	お互いの活動を知ることで共通点や相違点を見つけて、お互い協力して住民主体の新しい事業を実施した。	◎	C E

具体的な活動が見えない家庭教育サポート企業に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
60	各町の子育て活動のPR、楽しく見せる資料を作成し企業訪問をする。	企業が(従業員)が社会教育事業に参加するようになる。	未	A E

家庭教育支援の事業に参加しない保護者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
61	青年団のネットワークを活用するなど教育委員会以外からのルートで、参加の働きかけをする。	学習会への参加が増える。	未	C E
62	参加しやすい「遊び」を入り口にして、講座をちりばめるような事業を実施した。	新たな参加者が増え、参加者同士の交流がすすんだ。	○	A D
63	広報の工夫、事業タイトルの工夫をして、親子事業として参加者を集める。	気軽に話し合える場をもてるようになる。普段は言えない悩みを共有できる。	未	A D
64	PTA総会、乳幼児法定健診などの家庭教育支援事業以外の場で、教育委員会以外の団体が家庭教育に関する情報提供を行う。	家庭教育支援に興味のなかった方に情報が伝わり、参加者の裾野が広がる。 団体が情報提供を行うことで、団体の主体性が生まれる。	未	B E

子育て学級に参加する人が固定されているなど、家庭教育についてもっと関心を高めたい地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
65	参加するメリットのある事業を実施する。	多くの方の参加につながり、子育ての悩み解決につながる。	未	C E
66	学びカフェ事業について、保護者も含め、支援センター職員、家庭教育ナビゲーターと情報の共有を図った。	保護者に当事者意識が生まれ、家庭教育への関心が高まった。	○	B E
67	「家庭教育」の堅いイメージを前面に出さずに、同じ境遇にある保護者との繋がりを通じた楽しさを強調した。	多くの方が参加するようになり、家庭教育に関する情報をより、共有しやすくなるとともに、保護者同士の交流促進が図られる。	○	A D
68	地域の行事でブースの出店や事業の広報を行う。	事業をきっかけにつながりが生まれ、気軽に家庭教育の情報を得られるようになる。	未	C E
69	管内規模での家庭教育ナビゲーター認定研修会を実施し、ナビゲーターが実際に活躍できる場を設定した。	身近な人材であるナビゲーターが活躍する姿を見た事業参加者が興味を持ち、活動が広がった。	○	B D
70	家庭教育学級の参加者を巻き込んで活動通信又は参加募集チラシ作成し配布する。	家庭教育学級の主体性が増す。	未	C E

行政とのつながりの少ない読み聞かせの団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
71	事業ボランティアにお誘いする。	顔見知りが増え、行政からも、団体からもお互い相談しやすくなり、読み聞かせを通じた家庭教育支援活動につながる。	未	A D

子育て世代、支援センターに通うママに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
72	支援センターやナビゲーターと情報交流、ママに役割を与え、当事者意識を持つように働きかける。	社会とのつながりの大切さに気付き、家庭教育への関心が深まり主体的に活動するママが増える。	未	B E
73	親子で自然体験、遊び体験、調理体験などを行う機会を提供した。	他の家族と自然な交流が生まれた。	○	A
		保護者が子どもの活動を見守ることができ、子どもとの関わり方を考える機会ができた。	○	D

地域学校協働活動による子どもたちの豊かな人間性、社会で生きる力を育成するアプローチ

地域や地域人材について、知ってもらいたい学校や先生方に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
74	校内研修の1コマをもらい、地域のことを学習する機会を提供する。	先生方の理解が進み、よりよい教育活動を展開できる。	未	A F
75	学校の弱いところを地域に打ち明け、地域と協働で取り組む機会をつくる。	学校を非難する住民よりも応援する住民が増える。	未	A E
76	その地域ならではの交流の場を設けたり、社会教育主事講習の受講を勧めたりする。	教員が地域の課題や学校の役割を意識できるようになり、学校と地域が連携して教育活動ができるようになる。	未	A E
77	教職員が集まる場で、「学校の困りごとを社会教育で解決できるかもしれないので、気軽に相談してください。」と、周知した。	学校から、陶芸の実施について相談があり、社会教育担当者が調整を進め、陶芸制作を実施することができた。 前例ができたことで、さらに学校と社会教育の連携が図られると期待できるようになった。	○	B E
78	地域と連携したキャリア教育を実施する。	子どもたちと地域の関係、学校と地域の関係性ができ、地域が元気になる。	未	A E
79	伝統芸能を授業に組み込んでもらったり、土曜学習で伝統芸能に取り組んでもらったりした。	地域の方と子どもたちが声を掛け合うことができるようになった。 保存会が継続的に学校に入ることで、学校にゲストティーチャーが継続して入るようになった。	未	A E
80	市内の全ての学校が集まり、地域について調べた結果を発表する事業を行った。	児童生徒が調べ、発表する学習活動の結果、新たな魅力を気づくことにつながった。	○	A E
81	新任教員に地域のことを理解できる講座を実施する。	学校教員が地域のことを知り、地域の人と親睦を深めることができる。	未	A E

地域の就業先の情報を把握して欲しい先生方に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
82	学生(先生方)と企業を行政がつなぎ、企業説明会やしごと情報サイトの開設し、地元での就職情報が行き渡るようにした。	徐々にではあるが、地元で就職を決める方が増えた。	○	B E

地域学校協働活動に参画してほしいが、行政との接点が少ない青年団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
83	青年たちの思いをくみ取り、できることを一緒に探り実現できるよう支援をする。	青年たちが地域活動の担い手として成長する。次の活動へつなげることができる。	未	A E

事業への参加が少ない子どもを持つ保護者に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
84	親子で参加できる講座を提供する。	子どもが事業に参加できるようになる。(子どもの参加に親の理解は不可欠)	未	A D
85	保護者参加型事業を増やす。	ママ友から口コミで情報発信され、参加者が増える。	未	A D
86	事業を運営している高校生スタッフが、域内の小学校6校、中学校4校を訪問し、事業のPR活動を行った。	それまでは、1つの学校からの参加者が9割を占めていたが、他の学校からの参加も増え、定員以上の申込があった。	○	C D
	社会教育事業への参加実績をためるスタンプカードを使う。	参加する意欲が高まる。新たな参加者の掘り起こしにつながる。	未	

地域学校協働活動について理解が進んでいない学校・地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
87	交流会形式の説明会を実施し、年間の活動報告と、地域学校協働活動の説明を行った。	先生方の地域学校協働活動への理解が深まり、地域の方には活動の成果を知る機会となり、学校と地域の親睦が深まった。	○	A E
88	高校生が授業の中で、「町民が集まるために必要なこと」を話し合った。この意見を活用し、事業の周知を図った。	参加者が定員いっぱいとなるなど、活動への理解が進んだ。高校生たちにも達成感があり、人材育成にもつながった。	○	B F
89	地域の人々が学校に入る機会や、学校に地域交流スペース、地域交流タイムを設定し、教員と地域が触れあう機会をつくる。	地域の人々が学校に入りやすくなり、日常的に学校と地域の交流が生まれる。 できることからの積み重ねが地域学校協働活動につながる。	未	A E
90	地域学校協働活動の実施を働きかけ、実施する。	子どもの成長や変化を感じ、次の活動つなげることができる。	未	A E
91	今後導入予定の、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動で取り組む予定の「ふるさと科」の目的を明確にすることに取り組んだ。	関係者の間で、共通理解が進み、具体的な動きにつながると考えていたが、思ったほど理解が進まなかった。	△	B F
92	学校の先生向けにコミュニティ・スクールや地域学校協働活動の説明会(地域の人も参加)を実施する。	先生と地域の人々の交流、地域ビジョンの共有ができる。	未	A D
93	コミュニティ・スクール運営協議会による丁寧な説明を行う。	地域住民が学校に積極的に関わることの良さを理解する。	未	A D

子どもたちが地域と関わる機会が減っていて、子どもたちが地元に関心がない地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
94	ジュニアリーダーを育成し、活躍の場を設定する。	継続的にジュニアリーダーが育成され、地域への関心が高まり担い手が育成される。	未	A
		子どもたちの社交性が向上する。	未	E

		子どもたちが地元の人・モノに愛着を持つようになり、大人になっても地元を気にかける子に育つ。	未	
95	管内の中高生が集まり、地域に対する想いの共有や、目標を立てる場を設定した。	中高生同士、中高生と地域に関係性が生まれ、地元で活躍する人や資源に愛着を持つようになった。	○	A F

地域学校協働活動に参画して欲しい地域住民に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
96	特別な技術や能力がなくても、学校に関わることができることを知ってもらう（雑談できる）場をつくった。	「これくらいならできる」「それなら私もできるかも」が増え地域住民が参画しやすい学校になっていく。	○	B E
97	既存の団体が活躍できるような機会をつくったり、多くのボランティアが参加しやすいように実施内容を工夫した。	より多くの方が学校と関わるようになり、多様な地域住民が参画しやすい学校になっている。	○	C E
98	社会福祉協議会と連携し、少人数でも参画を得ることから始める。	参画した方が楽しかったという思いを持つことにつながり、生きがいが増え、次の活動につなげることができる。	未	B E
99	地域住民（陶芸サークル）が講師となる事業を実施した。	つながりが生まれたが、団体は普段からそれぞれの活動があるため、地域学校協働活動に主体的に動くという変化は生まれなかった。	△	C E
100	地域の住職に依頼し、子どもたちの宿坊体験を実施し、檀家さんをボランティアとした。	手伝いだけでなく、子どもと関わってくれる方も出てきた。主体的な活動を促すきっかけとするためにもこのような仕組みづくりを継続実施する。	継	C E
101	事業、授業に参画してもらう。	子どもとつながりを持つようになり、地域での子育てについて主体的に考えるようになる。	未	B E
102	土曜日の子供教室で、講師をしてもらった。	子どもたちとの交流で、事業に楽しさを感じていた。また、これがきっかけとなり自分の活動にさらに磨きをかけるため研修を行いたいと考えようになった。	○	B E
103	学校の先生との意見交流の場をつくり学校のニーズを把握する。	学校とボランティアのマッチングができて、学校と地域が WIN-WIN の関係になり、ボランティアの満足感も高まる。	未	A E

世代間交流の場が少ない地域の子どもたちに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
104	高齢者学級やサロン等が昔遊びの講師をする。	高齢者と子どもたちが、顔見知りになり、世代間交流が図られる。	未	B E
105	これまでは、高齢者と子どもの交流事業だったが、青年団体にも参加を呼びかけ、青年団による遊びのコーナーを設ける。	子どもと高齢者2世代の交流だけでなく、3世代の交流となり、高齢者だけでは実施できなかった身体を動かす交流も実施でき、事業自体の質が高まった。	○	B E
106	創作活動で作った作品を子供教室祭りで販売したり、地域の高齢者にプレゼントしたりする体験活動を実施する。	子どもと、地域住民や高齢者が交流できるようになる。	未	B E

107	小学生向けに地域の高齢者が、畑作業の手伝い、工作教室、パークゴルフ教室などを開催した。	地域の子どもと高齢者が親近感を持つようになり、挨拶や会話をするようになった。	○	B E
108	コミュニケーション不足な子どもたちと地域の高齢者が遊びを通して昔遊びや歴史・文化に触れる機会をつくった。	子どもは、学習の機会とコミュニケーションをとる機会を得ることができた。	○	B E

行政との接点を増やしたい学校の教員に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
109	学校支援の実施にあたり、教育委員会職員が積極的に学校に出向き、教員との関係づくりに努めた。	信頼関係を築く中で学校・地域・教育委員会の実情が把握できるようになり、より充実した地域学校協働活動の実施につながっていく。	○	B E
110	町P連の研究大会においてP連が主体的に判断できるように、社会教育から課題に対応できる複数の講師案を提示した。	研修会で呼んだ講師はその後も学校と関わるようになった。社会教育からの提案で学校に入り込むことに困難を感じていたが、課題を共有できれば可能だと知った。	○	B E

その他のアプローチ

地域活動への参加者が固定化されている地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
111	事業において、例年と全く同じ(踏襲)ではなく、少しでも内容を入れ替え、人材・活動のリニューアルを進めた。今年度は、他機関と連携して、資金を合わせて、高額な講師を招聘した。	例年より参加者が増え、豊かな学びを提供することができた。今後の学習意欲の高まりを感じた。	◎	A E

読書活動を推進するサークルがない地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
112	キーマンになりそうな人に現状を伝え、協力者を募った。	数人の賛同者は得られたが、サークルを立ち上げるには至らなかった。	△	A F
113	社会教育主事から、図書係長に読書サークルの必要性を説明した。	図書係長の理解を得ることができて、図書係長が中心となりサークルの立ち上げを目指し活動を進めている。	○	A F

マンネリ気味の夏まつり実行委員会に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
114	中学生ジュニアリーダーを参画させた。	委員会の活性化、雰囲気の変化がおり、中学生ジュニアリーダーの自立性、自主性、当事者意識が高まる。	○	C F

活動が停滞気味な図書館ボランティアに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類

115	活動の発表の場を設けると、	活動に対する充足感を得られることで、図書館とボランティアが互いにWIN-WINな関係が築ける。	未	B G
-----	---------------	---	---	--------

地域の集まりに出てくる子どもが減少している地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
116	小中学生のあこがれの的となるジュニアリーダーを育成し活躍の場、魅せ場を用意する。	地元を気にかけて、地域活動を行う子どもたちが育つまちとなる。	未	A D

目指す子ども像が、学校と地域で共有されていない地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
117	学校支援地域本部や放課後子ども教室の関係者が集まり話し合いの場を設ける。	目的・ゴールを共有することができ、学校と地域の距離が近くなり、一方的ではなく双方向な活動となる。	未	A E
118	市内の小中学校教員や学校支援ボランティア、学校支援地域本部関係者と話し合いの場を設けた。	学校が目指すものや考え、地域やボランティアの声を両者で共有することができ、双方がより意欲的になった。	○	A E

ボランティアの確保に向けて

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
119	誰でも気軽に参加できるボランティアの機会をつくる。	地域のつながりに前向きな大人が増える。	未	B D
120	参加者の新規開拓、保護者の参加、町の事業に興味を持つ人材の発掘をねらい、夏季休業中の小学生を対象とした事業「世界一大きな絵の制作」を実施し、ボランティアを全町民から募った。	楽しい内容で児童の参加は増えたが、ボランティアの参加は増えなかった。 平日開催という条件もあったが、募集の仕方を工夫すればもう少し増えたかもしれない。	△	B D
121	現在中高生の過去の同事業参加者に運営者として携わってもらおう機会を定期的に設けた。	参加者（小学生）は、具体的な目標（人）ができ、将来のボランティア育成となっている。中高生にとっては、自主性、当事者意識が高まり、さらなる事業参加につながった。	○	C D

ジュニアリーダー団体の活動を周知できていない地域に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
122	チラシや活動報告を他の類似団体や学校にメールや郵送で配付、facebookで当該団体のページを作成し情報を発信した。	町の教育委員会が各団体との連絡が取りやすくなった。地域や学校の団体への理解が進み、応援してくれるようになった。	○	C E

学校と自宅以外に学習環境がなく、学習習慣の定着が課題だった町に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
123	図書室内にネットを使った学習塾を視聴できる環境を整備した。	中学生が図書室を訪れ、インターネット塾以外にも宿題等に取り組むようになり、集いの場としても定着しつつある。	○	D
124	長期休業中に大学生のボランティア等を活用し学力アップ講習会を開催した。	以前の参加者が高校進学後に講師として参画してくれた。	○	B E

参加者同士の交流を促進させたい研修旅行訪問団に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
125	事前研修でロールプレイ等、交流できるアクティビティを多く盛り込んだ。	年齢や性別に関わらず、会話をできるようになり、親睦が深まった。研修中にも質問・意見や活発に出るようになり有意義な研修となった。	○	A E

リーダーとなってもらいたい中学生・高校生に

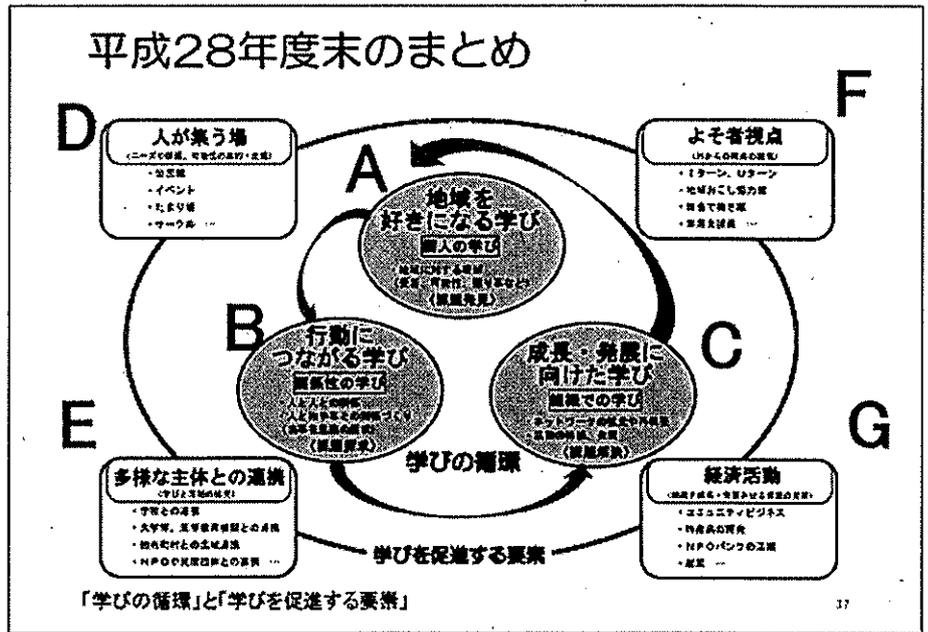
	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
126	中学生を対象としたリーダー研修会を実施し、中学生リーダーを育成。中学生リーダーが「小学生リーダー研修会」の活動内容を企画する。	活動を通して、参加者の考える力や、主体性・協調性等が養われ、小学生リーダー研の充実につながった。	○	B F
127	まちの現状を調査し、「素敵なまち」にするための方策を協議し、地域の住民に提案するという活動を行った。	参加者から「主体的性が身につく良い機会だった。」「地域の人たちと関わっていきたい。」等の感想あり、地域活動への参加意欲が高まった。	◎	A F
128	長期休業中に高校生が小学校にいき、児童向けの体験活動を実施した。	高校生は自らの知識の不足を感じ、またボランティア活動へのモチベーションが高まり、次の機会では質の向上が見られた。	継	C D

長く活動を続けて欲しい地域活動のボランティアに

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
129	ボランティアを行う理由を探り、共通する人材を引き合わせる。	仲間が増え、活動が楽しくなり、活動意欲が増し、長く続けることができる。	○	C E
130	教育委員会で行っている、住民の自主的な学習を補助する事業を紹介した。	新たな学びをすることで、スキルを獲得するとともに新たな仲間が増やし、活動につなげることができた。	○	A E
131	子ども会キャンプ事業の企画を任せた。	危険を伴う企画だったため、却下してしまったが、「今度は大人だけでキャンプをしよう!」と、別な事業のきっかけとなった。また、イベントに対する理解が深まり次につながると期待している。	△	B D

環境保全活動を行いたい意欲のある団体に

	アプローチ	団体等の変容	評価	分類
132	専門家との交流の機会を提供した。	活動の効率が向上するとともに活動の意義の再確認をすることができ、団体のモチベーションが向上した。	◎	B F



	青年層	高齢者	家庭教育支援	地域学校協働活動	その他
A 地域を好きになる 学び	1, 3, 4, 5, 6, 9 , 15, 16, 21, 22, 23	29, 36, 43, 44 , 46, 48, 49, 50, 51, 52, 53	56, 60, 62, 63, 67 , 71, 73,	74, 75, 76, 78, 79, 80, 81 , 83, 84, 85, 87, 89, 90, 92, 93, 94, 95, 103	111, 112, 113, 116, 117, 118, 125, 127, 130
B 行動につながる 学び	2, 7, 8, 10, 11 , 12, 13, 14, 17, 18, 19, 25	26, 27, 28, 30 , 31, 37, 38, 39, 40, 41, 42 , 45, 47, 54	57, 64, 66, 69, 72	77, 82, 88, 91, 96, 98, 99 , 100, 101, 102, 104, 105 , 106, 107, 108, 109, 110	115, 119, 120, 124, 126, 131, 132
C 持続発展に向けた 学び	20, 24	32, 33, 34, 35	55, 58, 59, 61, 65 , 68, 70	86, 97	114, 121, 122, 128, 129
D 人が集う場	2, 3, 7, 8, 10, 16, 17, 21, 22 , 23	26, 27, 28, 29 , 30, 36, 44, 45, 46, 51	62, 63, 67, 69, 71 , 73	84, 85, 86, 92, 93	116, 119, 120, 121, 123, 128
E 多様な主体との連 携	6, 9, 11, 12	31, 37, 42, 43 , 47, 49, 50, 52, 53, 54	55, 56, 57, 58, 59 , 60, 61, 64, 65, 66, 68, 70, 72	75, 76, 77, 78, 79, 80, 81 , 82, 83, 87, 89, 90, 94, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110	111, 112, 117, 118, 122, 124, 125, 129, 130, 131
F よそ者	1, 5, 18, 20, 24, 25	32, 33, 34, 35 , 38, 39, 40, 41, 48,		74, 88, 91, 95	113, 114, 126, 127, 132
G 経済活動	19				115

<アプローチの提供>

北海道社会教育主事会協議会
空知社会教育研究協議会
石狩管内社会教育主事会
後志社会教育主事会
胆振管内社会教育主事会
日高管内社会教育主事会
渡島社会教育主事会
檜山管内社会教育主事会
上川管内社会教育主事会
留萌管内社会教育主事会
宗谷管内社会教育主事会
オホーツク管内社会教育主事会
十勝社会教育主事会
釧路管内社会教育主事会
根室管内社会教育主事会

<編集・発行>

北海道立生涯学習推進センター

平成31年2月14日発行